兵庫津遺跡第62次調査

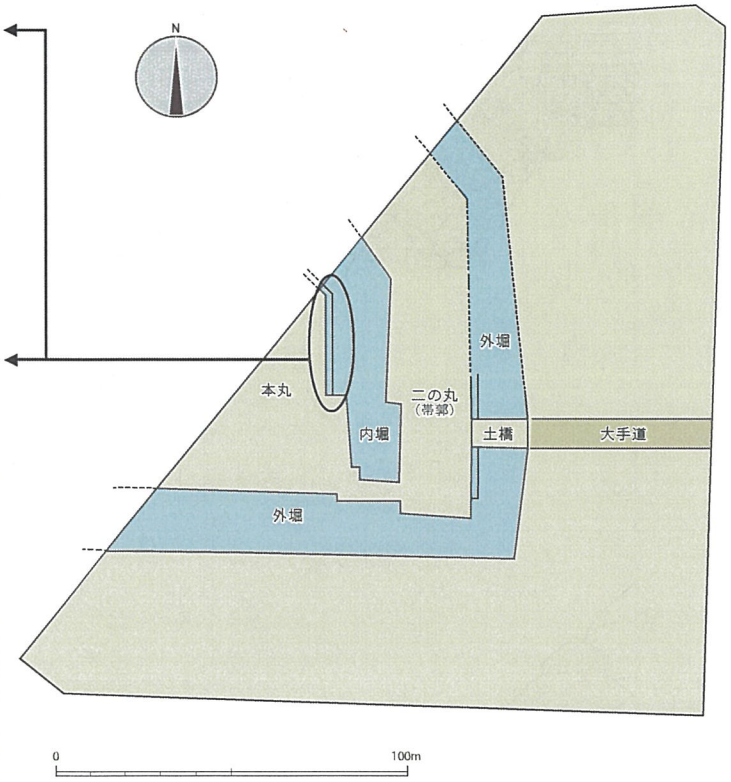
20150328
第４回現地説明会
神戸市教育委員会

兵庫城本丸で、天守台と考えられる石垣が見つかりました。石垣は本丸北東隅にあたる部分で、内堀に面して鈍角に広がっています。この石垣は、横幅 1m内外の石で前後に二重に構築しています。前列と後列の石垣の裏には、外堀石垣とは比較にならない大量の栗石が充填されています。さらに、前後の石垣列の下からは、胴木組が兵庫城で初めて発見されました。この胴木は９本で、長さ 3.4 ～ 5.3m、厚さ 20cm ほどの角材や丸太材で、建築部材を転用したものや自然木を加工したものです。

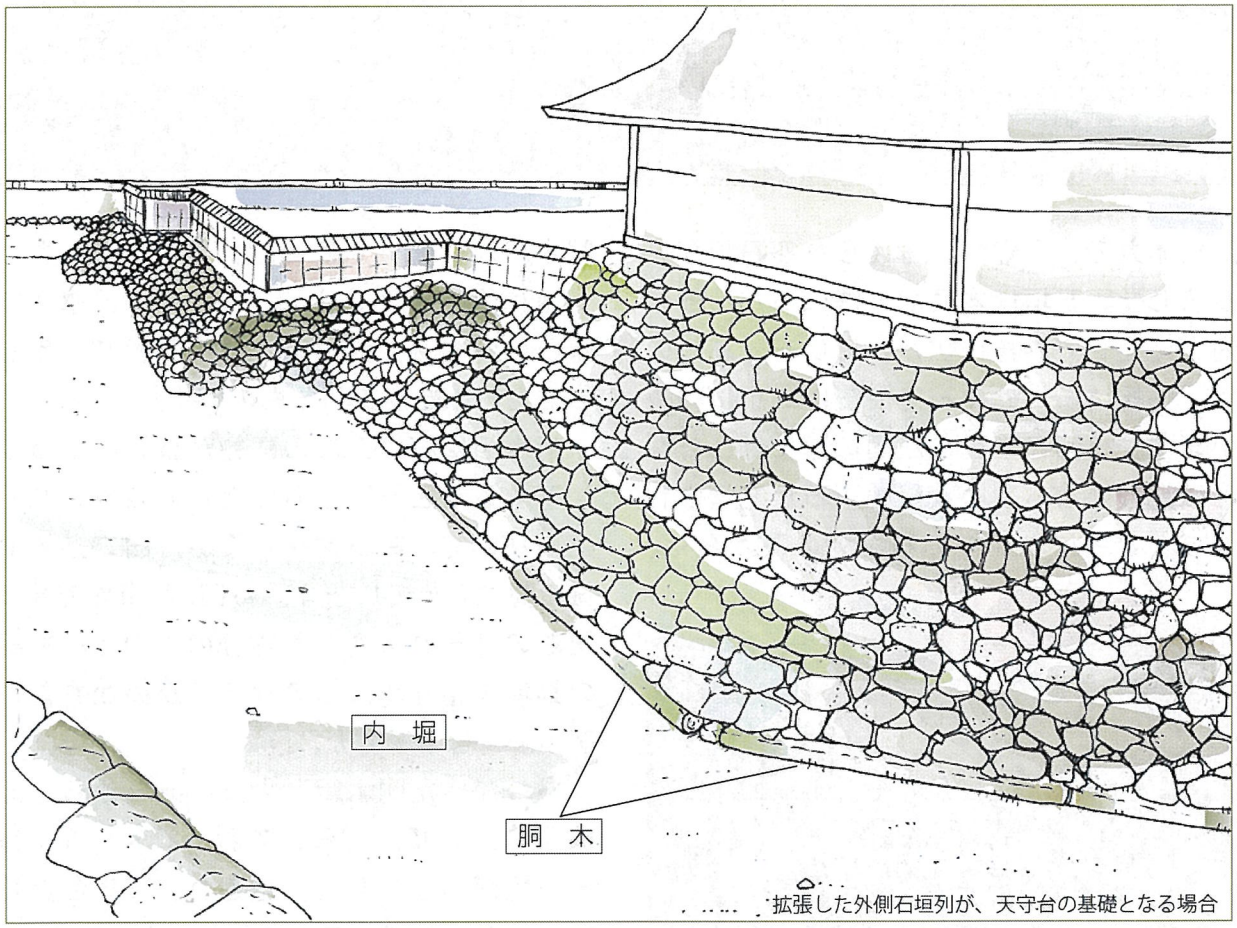
胴木組は石垣上部の建物が重量によって不等沈下することを防ぐものとして取り入れられた築城技術で、織田信長が築いた旧二条城や安土城で見つかっています。今回、兵庫城で見つかったものはそれに次ぐ最古級のもので、織田信長の築城技術を導入して兵庫城が築かれたことが明らかになりました。

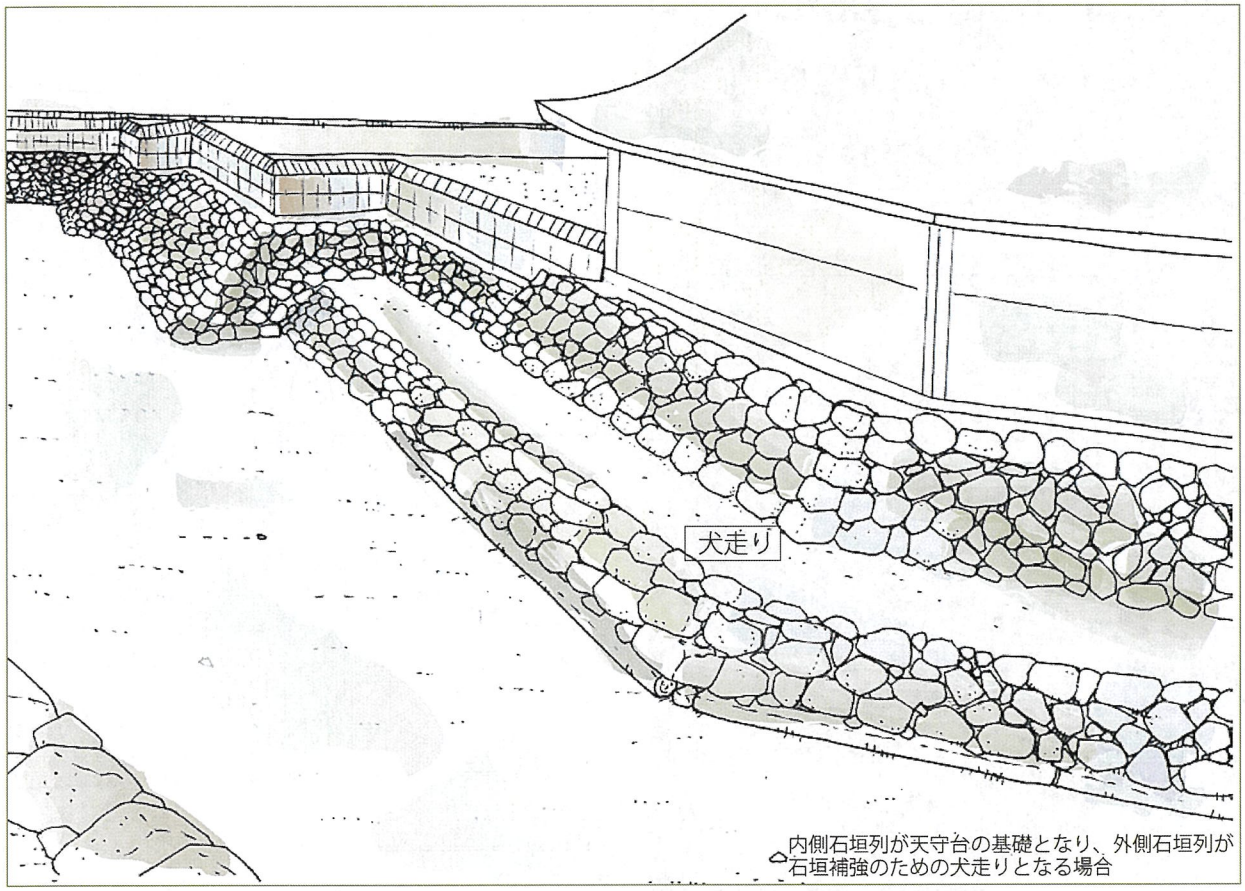
見つかった胴木組と大量の栗石からなる石垣は非常に重厚に造られており、３～５m程度の高石垣が存在したと推定され、天守台としての機能を持った石垣であると考えられます。

本丸（天守台）石垣



兵庫城堀跡模式図





兵庫城天守台復元想定図
（2015 年 3 月時点での想定であり、今後変更する可能性があります）